

越後の都
上越市

村上

新発田

高田藩の領地
松平忠輝時代

※村上氏(村上)、溝口氏(新発田)は与力大名

雪月花の城下町 高田

今からおよそ1300年前、国府がおかれた上越市は、越後国（新潟県）の政治・経済・文化・軍事の中心としての役割を担いました。

以来、越後国府の歴史と伝統は、上杉謙信公の越後府中と春日山城、豊臣秀吉の重臣、堀氏の福島城へと受け継がれ、さらに徳川幕府が天下普請で築き、家康の六男、松平忠輝公を城主に据えた高田城に結実しました。徳川の城ともいえる高田城は、図に示したように、越後一国と長野県北部を領地とする高田藩の中枢で、石高は、60万石（一説に75万石）を誇る全国でも屈指の雄藩でした。

城下町には町家や雁木、寺町などの街並みが整えられ、江戸時代後期に『北越雪譜』を著した鈴木牧之は、高田を「ここは北越随一の市会なり。商工軒をならべ百物備ざることなし」とその繁栄ぶりを紹介しています。400有余年の歴史を持ち、四季折々のロマンあふれる「雪月花の城下町」高田は、訪れる人にその魅力を語り続けています。

高田の歴史

西暦	出来事
1614	松平忠輝 福島城を廃し、高田城に移る
1616	酒井家次 高田城主となる
1618	松平忠昌 高田城主となる
1624	松平光長 高田城主となる
1665	高田地震が起きる
1679	越後騒動が起る
1685	稲葉正通 高田城主となる
1701	戸田忠真 高田城主となる
1710	松平定重 高田城主となる
1741	榊原政永 高田城主となる
1861	榊原政敬 高田城主となる（最後の高田藩主）
1868	北越戊辰戦争 高田藩は新政府軍として戦う
1871	廃藩置県により高田藩を高田県とし、後に柏崎県となる
1873	柏崎県が新潟県に合併される
1908	陸軍第13師団が入城
1909	高田城跡に2200本の桜が植樹される
1911	レルヒ少佐によるスキー指導 高田市が誕生
1913	高田開府300年祭
1926	第1回観桜会開催
1964	高田開府350年祭
1971	高田市と直江津市の合併で上越市が誕生
1993	三重櫓を復元
2002	極楽橋を木橋として復元
2005	14市町村の合併で新「上越市」が誕生
2014	高田開府400年祭
2018	歴史博物館開館
2020	高田公園が高田城址公園に名称変更